

石川 県 学 校 保 健 統 計 調 査

平 成 22 年 度



 石川県県民文化局

はじめに

学校保健統計調査は、幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的としており、統計法に基づく基幹統計調査として文部科学省が昭和23年以降毎年実施しているものです。

この報告書は、平成22年度に実施した「学校保健統計調査」の結果をまとめたものであり、学校保健行政推進の一助として、広く関係各方面において活用していただければ幸いです。

なお、調査の実施にあたり、多大なご協力をいただきました調査実施校、関係各位に対し厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご協力を賜われますようお願いいたします。

平成23年1月

石川県県民文化局長 三 国 栄

目 次

利用者のみなさんへ	1
調査結果の概要	3
Ⅰ 発育状態	3
1 平均体格	3
(1) 各年齢間の体格差	3
(2) 男女の体格差	4
2 30年前（昭和55年度）の体格との比較	5
(1) 17歳（高校3年生）の体格の比較	5
(2) 体格差の最も大きい年齢	5
3 30年前（昭和55年度）の発育量との比較	6
(1) 総発育量の比較	6
(2) 年間発育量の最も大きい年齢	6
Ⅱ 健康状態	8
1 疾病・異常被患率の状況	8
2 主な疾病・異常被患率の推移	8
Ⅲ 全国値との比較	11
1 発育状態	11
(1) 全国平均体格との差	11
(2) 総発育量の全国平均値との比較	12
(3) 17歳（高校3年生）の身長全国平均値との比較	12
(4) 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較	12
(5) 痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較	13
2 健康状態	13
主な疾病・異常被患率の全国平均値との比較	13
統計表	
別表1 年齢別、男女別体格の平均値及び標準偏差（全国、石川県）	17
別表2 年次別、年齢別、男女別身体計測値の推移（全国、石川県）	19
別表3 学校種類別、男女別疾病・異常被患率（全国、石川県）	21
別表4 主な疾病・異常被患率の推移（全国、石川県）	23
別表5 年次別、男女別発育量の推移（石川県）	25
付 属 資 料	
都道府県別 身長・体重・座高の平均値及び標準偏差	26

利用者みなさんへ

1 調査の目的

この調査は、児童、生徒及び幼児の発育及び健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の範囲・対象

- (1) 調査の範囲は、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定した学校(以下「調査実施校」という。)である。
- (2) 調査の対象は、調査実施校に在籍する満5歳から17歳(平成22年4月1日現在)までの幼児、児童及び生徒の一部である。

3 調査期日及び項目

平成22年4月から6月までの間に実施された学校保健安全法による健康診断結果に基づき下記の事項について調査した。

- (1) 幼児、児童及び生徒の発育状態(身長、体重、座高)に関する事項
- (2) 幼児、児童及び生徒の健康状態(疾病・異常)に関する事項

聴力検査(難聴)、結核検査、結核に関する検診、心電図検査、尿糖検査、寄生虫卵検査、永久歯のう歯等数については調査対象年齢(学年)が次表のとおり限定されている。

区 分	幼稚園	小 学 校						中 学 校			高 等 学 校		
	5歳	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
聴 力 検 査	—	○	○	○	—	○	—	○	—	○	○	—	○
結 核 検 査	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
結核に関する検診	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—
心 電 図 検 査	—	○	—	—	—	—	—	○	—	—	○	—	—
尿 糖 検 査	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
寄 生 虫 卵 検 査	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
永久歯のう歯等数	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—
上記以外の検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(注) ○印は調査対象年齢である。

4 調査の範囲・対象・抽出の方法

調査における標本抽出の方法は、各学校種毎に調査実施校を抽出し、発育状態調査では更に幼児、児童及び生徒を抽出する。また、健康状態調査では、調査実施校の在籍者全員を対象としている。

なお、標本抽出の結果、得られた調査対象者数は次表のとおりである。

区 分	学 校 総 数 (校)	幼 児 ・ 児 童 ・ 生 徒 総 数 (人)	調 査 実 施 校 数 (校)	調 査 対 象 者 数 (人)	
				発 育 状 態	健 康 状 態
総 数	470	140,812	148	12,834	65,720
幼 稚 園	75	8,123	28	986	1,430
小 学 校	233	66,761	57	5,257	26,216
中 学 校	102	33,476	37	4,254	18,117
高 等 学 校	60	32,452	26	2,337	19,957

5 利用上の注意

- (1) 身体計測値及び疾病・異常被患率の石川県数値については、小数第2位を四捨五入し、標準偏差及び疾病・異常被患率の全国数値については、少数第3位を四捨五入した。
- (2) 統計表の符号の用法は、皆無「－」、調査対象外「…」、単位未満「0.0」「0.00」、減少「△」とした。
- (3) [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差5%以上、受検者数が100人(5歳児は50人)未満又は回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。
- (4) この報告書の数値については、後日文科科学省が発表する「平成22年度学校保健統計調査」の数値を確定値とする。

調査結果の概要

I 発育状態

1 平均体格 (表1、図1、別表1参照)

平成22年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長、体重及び座高の平均値を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

(1) 各年齢間の体格差

① 身長

男子は、12歳と13歳の間が7.6cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.8cmと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が6.5cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.2cmと最も小さい。

② 体重

男子は、14歳と15歳の間が6.7kgと最も大きく、16歳と17歳の間が0.7kgと最も小さい。女子は、11歳と12歳の間が5.1kgと最も大きく、16歳と17歳の間は0.4kgと最も小さい。

③ 座高

男子は、11歳と12歳の間が3.8cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.6cmと最も小さい。女子は、5歳と6歳の間が3.5cmと最も大きく、14歳と15歳は0.0cmと最も小さい。

表1 年齢別、男女別体格の平均値と男女差

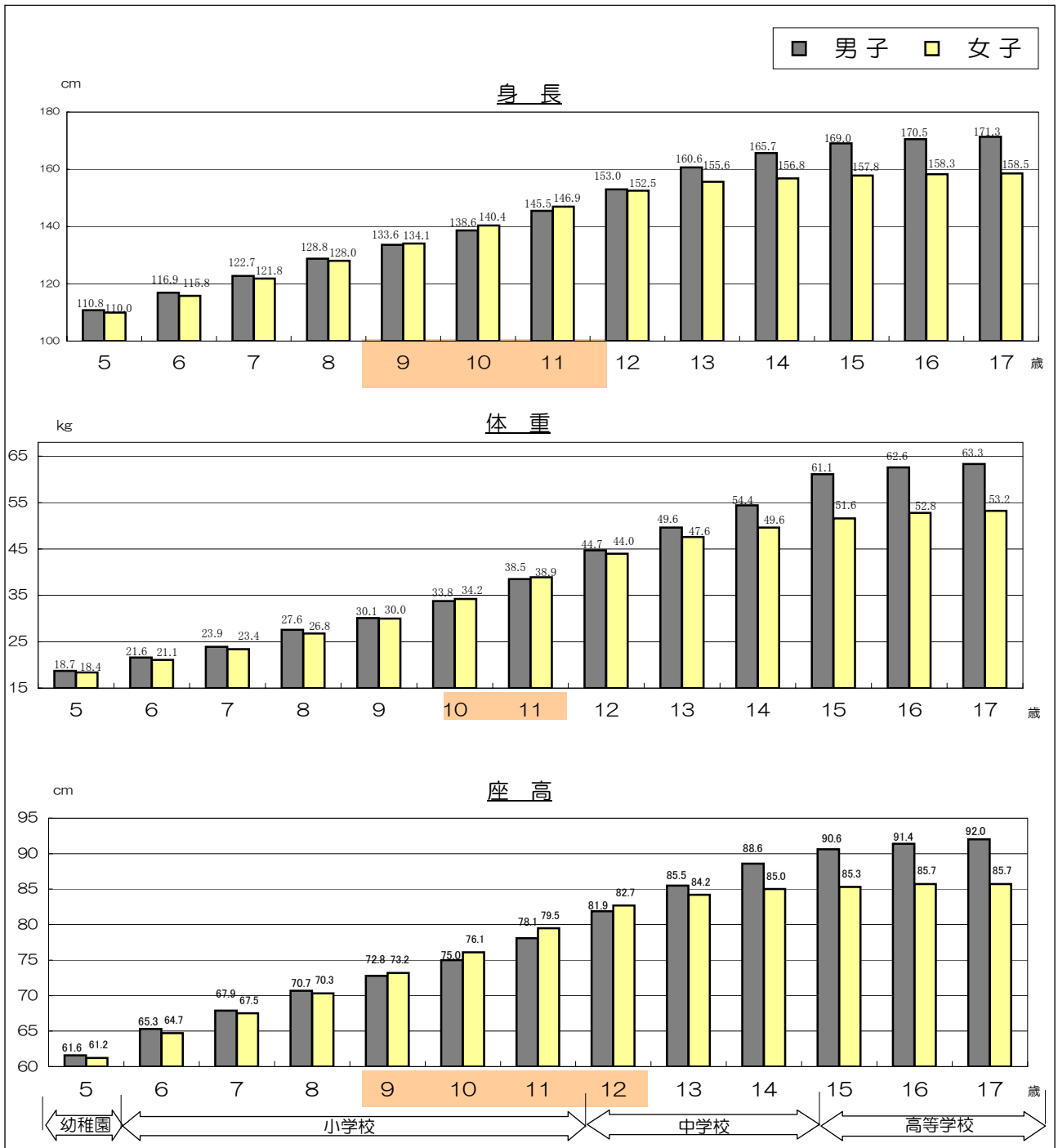
区分		身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
		男子	女子	差	男子	女子	差	男子	女子	差
幼稚園	5歳	110.8	110.0	0.8	18.7	18.4	0.3	61.6	61.2	0.4
小学校	6歳	116.9	115.8	1.1	21.6	21.1	0.5	65.3	64.7	0.6
	7歳	122.7	121.8	0.9	23.9	23.4	0.5	67.9	67.5	0.4
	8歳	128.8	128.0	0.8	27.6	26.8	0.8	70.7	70.3	0.4
	9歳	133.6	134.1	△0.5	30.1	30.0	0.1	72.8	73.2	△0.4
	10歳	138.6	140.4	△1.8	33.8	34.2	△0.4	75.0	76.1	△1.1
中学校	11歳	145.5	146.9	△1.4	38.5	38.9	△0.4	78.1	79.5	△1.4
	12歳	153.0	152.5	0.5	44.7	44.0	0.7	81.9	82.7	△0.8
	13歳	160.6	155.6	5.0	49.6	47.6	2.0	85.5	84.2	1.3
高等学校	14歳	165.7	156.8	8.9	54.4	49.6	4.8	88.6	85.0	3.6
	15歳	169.0	157.8	11.2	61.1	51.6	9.5	90.6	85.3	5.3
	16歳	170.5	158.3	12.2	62.6	52.8	9.8	91.4	85.7	5.7
	17歳	171.3	158.5	12.8	63.3	53.2	10.1	92.0	85.7	6.3

(注) 「差」は、男子の数値から女子の数値を差し引いたものである。

(2) 男女の体格差

女子が男子を上回る発育年齢は、身長では9～11歳、体重では10、11歳、座高では9～12歳で、その差の最大は、身長では10歳の1.8cm、体重では10、11歳の0.4kg、座高では11歳の1.4cmとなっている。この時期を過ぎると男子が女子を上回り、17歳での差は、身長12.8cm、体重10.1kg、座高6.3cmとなっている。

図1 男女別、年齢別平均体格



2 30年前（昭和55年度）の体格との比較（表2、別表2参照）

平成22年度と30年前の昭和55年度の体格を比較してみると、男子は5歳体重、座高、女子は、5歳体重、座高と14歳身長、体重、17歳体重を除くすべてにおいて向上している。

(1) 17歳（高校3年生）の体格の比較

17歳の体格を比較すると、30年前に比べて男子は身長が0.9cm高く、体重が2.4kg多く、座高が0.9cm高くなっている。女子は身長が0.6cm高く、体重が0.6kg少なく、座高が0.4cm高くなっている。

(2) 体格差の最も大きい年齢

30年前と比べ最も差の大きい年齢は、男子は身長13歳、体重15歳、座高は12、13歳となっている。女子は身長9歳、体重8歳、座高9歳となっている。

表2 30年前の体格との比較

区分	身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)				
	平成 22年度	昭和 55年度	差	平成 22年度	昭和 55年度	差	平成 22年度	昭和 55年度	差		
男子	幼稚園	5歳	110.8	110.6	0.2	18.7	18.8	△0.1	61.6	62.3	△0.7
	小学校	6歳	116.9	116.1	0.8	21.6	20.9	0.7	65.3	64.8	0.5
		7歳	122.7	121.9	0.8	23.9	23.2	0.7	67.9	67.5	0.4
		8歳	128.8	127.3	1.5	27.6	26.1	1.5	70.7	70.0	0.7
		9歳	133.6	132.7	0.9	30.1	29.3	0.8	72.8	72.3	0.5
		10歳	138.6	138.2	0.4	33.8	32.7	1.1	75.0	74.5	0.5
		11歳	145.5	144.0	1.5	38.5	36.4	2.1	78.1	76.7	1.4
	中学校	12歳	153.0	150.7	2.3	44.7	41.6	3.1	81.9	80.3	1.6
		13歳	160.6	157.6	3.0	49.6	46.6	3.0	85.5	83.9	1.6
		14歳	165.7	164.4	1.3	54.4	52.3	2.1	88.6	87.5	1.1
	高等学校	15歳	169.0	167.8	1.2	61.1	57.2	3.9	90.6	89.4	1.2
		16歳	170.5	169.5	1.0	62.6	59.7	2.9	91.4	90.5	0.9
		17歳	171.3	170.4	0.9	63.3	60.9	2.4	92.0	91.1	0.9
	女子	幼稚園	5歳	110.0	109.9	0.1	18.4	18.6	△0.2	61.2	61.7
小学校		6歳	115.8	115.3	0.5	21.1	20.3	0.8	64.7	64.5	0.2
		7歳	121.8	121.1	0.7	23.4	22.8	0.6	67.5	67.1	0.4
		8歳	128.0	126.9	1.1	26.8	25.3	1.5	70.3	69.7	0.6
		9歳	134.1	132.9	1.2	30.0	29.0	1.0	73.2	72.3	0.9
		10歳	140.4	139.4	1.0	34.2	32.8	1.4	76.1	75.4	0.7
		11歳	146.9	145.9	1.0	38.9	37.9	1.0	79.5	78.7	0.8
中学校		12歳	152.5	151.5	1.0	44.0	43.0	1.0	82.7	82.0	0.7
		13歳	155.6	154.8	0.8	47.6	46.8	0.8	84.2	83.6	0.6
		14歳	156.8	156.9	△0.1	49.6	49.9	△0.3	85.0	85.0	-
高等学校		15歳	157.8	156.8	1.0	51.6	51.3	0.3	85.3	84.9	0.4
		16歳	158.3	157.5	0.8	52.8	52.6	0.2	85.7	85.3	0.4
		17歳	158.5	157.9	0.6	53.2	53.8	△0.6	85.7	85.3	0.4

3 30年前（昭和55年度）の発育量との比較（表3、図2、別表5参照）

5歳から17歳まで12年間の総発育量と年間発育量の最も大きい年齢について、今年度調査の17歳（平成4年度生まれ）と30年前調査の17歳（昭和37年度生まれ）を比較すると、次のとおりである。

(1) 総発育量の比較

今年度17歳（平成4年度生まれ）の総発育量を30年前と比較すると、身長では男子0.6cm減、女子0.7cm減、体重では男子1.8kg増、女子1.3kg減、座高では男子0.7cm増、女子も0.7cm増となっている。

(2) 年間発育量の最も大きい年齢

今年度17歳（平成4年度生まれ）の年間発育量をみると、男子は身長、体重、座高とも11歳時が最も大きく、女子は身長10歳時、体重10歳時、座高5歳時が最も大きい。

一方、30年前の17歳（昭和37年度生まれ）の年間発育量は、男子は身長は11歳時、体重は13歳時、座高は13歳時が最も大きく、女子は身長10歳時、体重は11歳時、座高は9歳・10歳時が最も大きい。

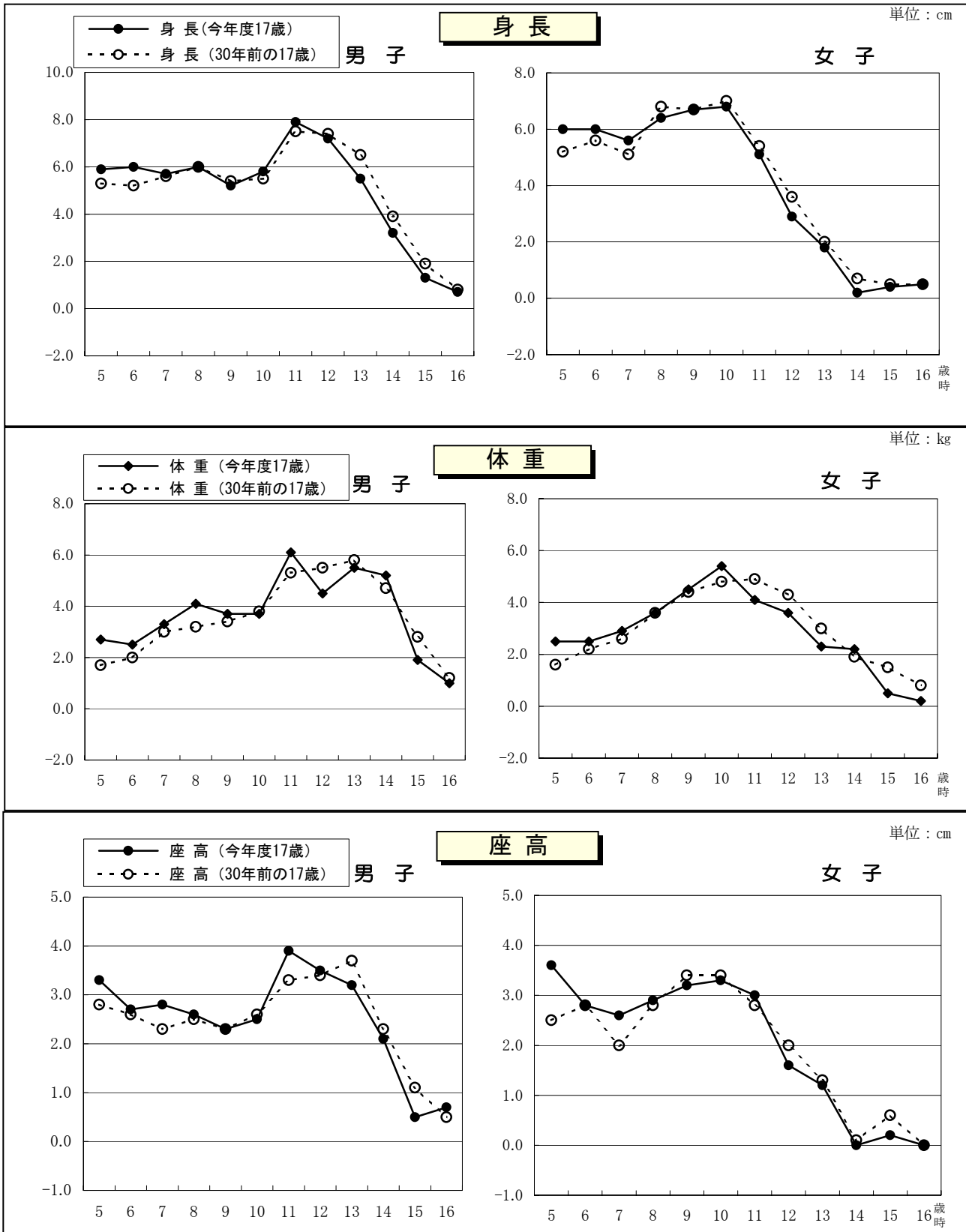
表3 年次別、男女別、発育量の比較

区分	男子				女子				
	5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	
身長 cm	昭和 37 年度生まれ	109.4	170.4	61.0	11歳時	108.8	157.9	49.1	10歳時
	47	110.3	170.7	60.4	12歳時	109.4	158.7	49.3	10歳時
	57	111.1	171.5	60.4	12歳時	110.5	158.7	48.2	10歳時
	62	110.8	172.3	61.5	12歳時	110.0	158.1	48.1	10歳時
	平成 4	110.9	171.3	60.4	11歳時	110.1	158.5	48.4	10歳時
体重 kg	昭和 37 年度生まれ	18.5	60.9	42.4	13歳時	18.2	53.8	35.6	11歳時
	47	18.9	61.4	42.5	14歳時	18.4	52.6	34.2	11歳時
	57	19.2	63.5	44.3	11歳時	18.9	53.7	34.8	10歳時
	62	19.1	64.2	45.1	11歳・12歳時	18.8	53.8	35.0	10歳時
	平成 4	19.1	63.3	44.2	11歳時	18.9	53.2	34.3	10歳時
座高 cm	昭和 37 年度生まれ	61.7	91.1	29.4	13歳時	61.6	85.3	23.7	9歳・10歳時
	47	61.7	91.5	29.8	12歳時	61.2	85.9	24.7	10歳時
	57	62.5	92.0	29.5	11歳・12歳時	62.1	85.6	23.5	10歳時
	62	61.6	92.6	31.0	5歳時	61.2	85.9	24.7	5歳時
	平成 4	61.9	92.0	30.1	11歳時	61.3	85.7	24.4	5歳時

(注)1 総発育量とは、例えば37年度生まれの総発育量は、37年度生まれの「17歳時の体格」から「5歳時の体格」を引いたものである。

(注)2 出生年度については、例えば、「昭和37年度生まれ」とは、昭和37年4月2日から翌年4月1日までに生まれた者をいう。

図2 年間発育量の30年前との比較



(注) 年間発育量とは、例えば、平成4年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成11年度調査6歳の者の体位から平成10年度調査5歳の者の体位を引いたものである。

II 健康状態

1 疾病・異常被患率の状況(表4、別表3参照)

平成22年度の定期健康診断における幼児、児童及び生徒の各疾病・異常の被患率は、「う歯(処置完了者＋未処置歯のある者)」が小学校、高等学校とも第1位を占め、被患率も小学校61.3%、高等学校62.2%と他の疾病等に比較して高くなっている。

「裸眼視力1.0未満」は、中学校で第1位を占め、小学校で第2位と高く被患率も小学校が31.7%、中学校61.3%となっている。

表4 主な疾病・異常被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	その他の疾病・異常	2.6	う 歯	61.3	裸眼視力1.0未満	61.3	う 歯	62.2
2	歯列・咬合	1.8	裸眼視力1.0未満	31.7	う 歯	55.7	歯垢の状態	7.2
3	鼻・副鼻腔疾患	1.4	鼻・副鼻腔疾患	6.5	心電図異常	5.4	歯肉の状態	5.5
4	寄生虫卵保有	1.4	その他の疾病・異常	5.1	鼻・副鼻腔疾患	4.6	鼻・副鼻腔疾患	4.1
5	アトピー性皮膚炎	1.4	歯垢の状態	4.1	歯垢の状態	4.5	歯列・咬合	3.8

2 主な疾病・異常被患率の推移(別表3・4参照)

(1) 栄養状態

平成22年度の栄養状態について「学校医から栄養不良又は肥満傾向で特に注意を要すると判定された者」の割合は、幼稚園が0.1%、小学校が0.8%、中学校が0.3%、高等学校が0.2%となっている。

(2) 鼻・副鼻腔疾患

平成22年度の「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症、アレルギー性鼻炎等)の被患率は、幼稚園が1.4%、小学校が6.5%、中学校が4.6%、高等学校が4.1%となっており、小学校、中学校、高等学校が前年度より低下している。

(3) 寄生虫卵保有(幼稚園及び小学校のみ)

平成22年度の「寄生虫卵保有者」の割合は、幼稚園が1.4%、小学校が0.9%となっており、前年度と比べると、幼稚園で上昇している。

(4) 心電図異常(6歳、12歳及び15歳時のみ)

平成22年度の「心電図異常」の者の割合は、小学校(6歳)が2.6%、中学校(12歳)が5.4%、高等学校(15歳)が3.7%となっており、前年度と比べると小学校、中学校で上昇しているが、高等学校では低下している。

(5) ぜん息

平成22年度の「ぜん息」の被患率は、幼稚園が0.5%、小学校が2.2%、中学校が1.9%、高等学校が1.7%となっており、前年度と比べると幼稚園、小学校で低下しており、高等学校では上昇している。

(6) う 歯 (表5・別表3参照)

「う歯」の被患率について過去の推移をみると、各学校種において多少の増減はあるものの全体として減少傾向にある。

また、平成22年度の被患率を平成13年度と比べると、小学校で19.9ポイント、中学校で26.3ポイント、高等学校で26.2ポイント減少している。ただし、幼稚園の今年度の被患率は公表されていない。

また、12歳の永久歯の1人当たりう歯等数は1.7本となり前年度と同じであった。

表5 う歯の処置完了状況等の推移

単位:%

区 分	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
幼稚園	計	66.51	59.09	59.49	66.67	58.86	53.20	52.30	45.8	48.5	x
	処置完了者	29.05	20.82	20.40	25.82	24.49	20.41	20.40	17.8	17.2	x
	未処置歯のある者	37.46	38.27	39.08	40.84	34.37	32.79	31.90	28.0	31.3	x
小学校	計	81.18	77.05	77.23	73.25	73.46	71.52	67.40	65.3	66.0	61.3
	処置完了者	36.84	33.20	35.15	32.64	32.78	30.86	30.00	28.4	29.8	26.3
	未処置歯のある者	44.34	43.84	42.08	40.60	40.67	40.66	37.50	36.9	36.2	34.9
中学校	計	82.04	78.27	74.61	78.09	69.17	66.66	64.00	64.6	58.8	55.7
	処置完了者	45.12	42.00	40.10	43.81	37.98	34.88	34.10	37.5	33.7	30.0
	未処置歯のある者	36.92	36.27	34.52	34.29	31.19	31.77	29.90	27.1	25.2	25.8
高等学校	計	88.40	85.93	83.15	78.29	73.99	71.17	73.40	72.6	69.1	62.2
	処置完了者	49.40	49.52	51.54	44.38	43.53	38.19	41.70	38.8	37.3	34.2
	未処置歯のある者	39.00	36.41	31.61	33.91	30.46	32.98	31.70	33.8	31.8	28.0

(注1) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

(注2) [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

(注3) 平成19年度から小数第1位までの表記となった。

(7) 裸眼視力 (表6参照)

「裸眼視力1.0未満」の被患率について過去の推移をみると、各学校種別においてそれぞれ増減を繰り返しているが、中学校では平成22年度が61.3%と上昇している。

また、平成22年度の被患率を平成13年度と比べると、小学校で4.5ポイント、中学校で5.6ポイント増加している。なお、幼稚園と高等学校の今年度の被患率は公表されていない。

表6 裸眼視力1.0未満の者の推移

単位:%

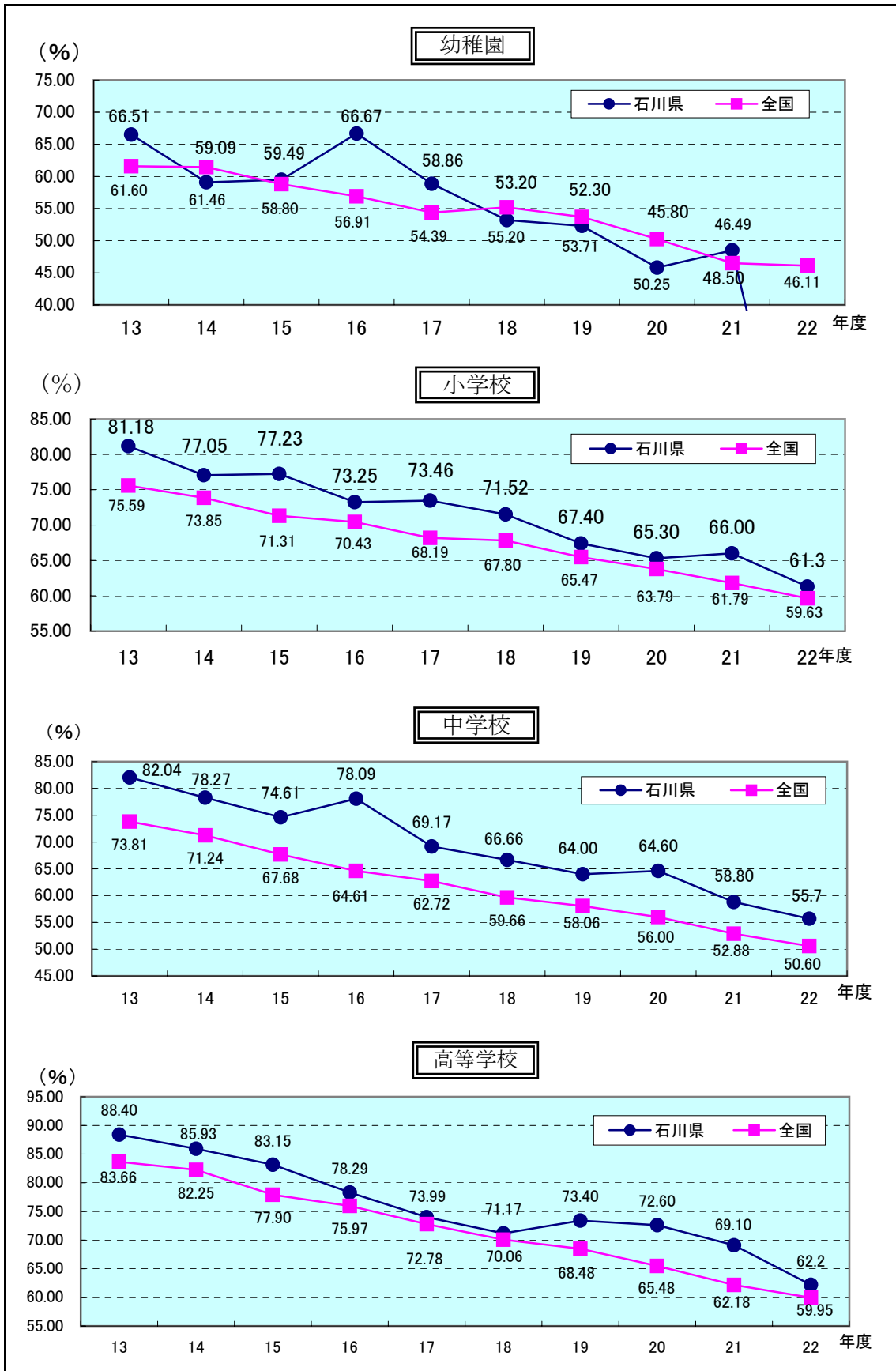
区 分	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	
幼稚園	計	15.56	25.32	36.73	23.22	10.65	x	15.30	11.7	x	x
	1.0未満0.7以上	11.66	15.62	24.40	14.66	6.63	x	10.80	8.6	x	x
	0.7未満0.3以上	3.65	8.58	12.33	7.91	3.65	x	4.20	2.4	x	x
	0.3未満	0.25	1.12	-	0.66	0.37	x	0.30	0.6	x	x
小学校	計	27.15	30.39	27.82	28.57	28.49	29.45	29.20	32.4	31.0	31.7
	1.0未満0.7以上	10.37	11.94	10.70	11.49	10.79	10.89	9.70	11.7	9.3	10.1
	0.7未満0.3以上	10.47	11.83	11.50	11.24	11.65	12.28	12.50	12.9	11.9	11.9
	0.3未満	6.31	6.62	5.62	5.84	6.05	6.29	7.00	7.8	9.8	9.8
中学校	計	55.65	55.40	52.46	53.26	56.11	51.41	58.90	57.5	59.0	61.3
	1.0未満0.7以上	11.13	9.83	10.22	9.75	10.28	7.14	10.50	10.7	10.1	11.5
	0.7未満0.3以上	20.87	17.49	19.37	16.91	18.61	20.09	22.20	18.3	21.5	19.9
	0.3未満	23.65	28.08	22.87	26.60	27.22	24.18	26.20	28.4	27.5	29.9
高等学校	計	75.29	74.96	71.61	71.29	64.07	x	61.00	65.3	68.9	x
	1.0未満0.7以上	8.31	8.96	9.67	8.90	19.18	x	8.00	9.6	9.5	x
	0.7未満0.3以上	14.48	13.79	16.30	13.74	16.58	x	14.60	17.1	15.2	x
	0.3未満	52.50	52.20	45.63	48.64	28.31	x	38.50	38.6	44.2	x

(注1) 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

(注2) [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

(注3) 平成19年度から小数第1位までの表記となった。

う歯の被患率の推移



Ⅲ 全国値との比較

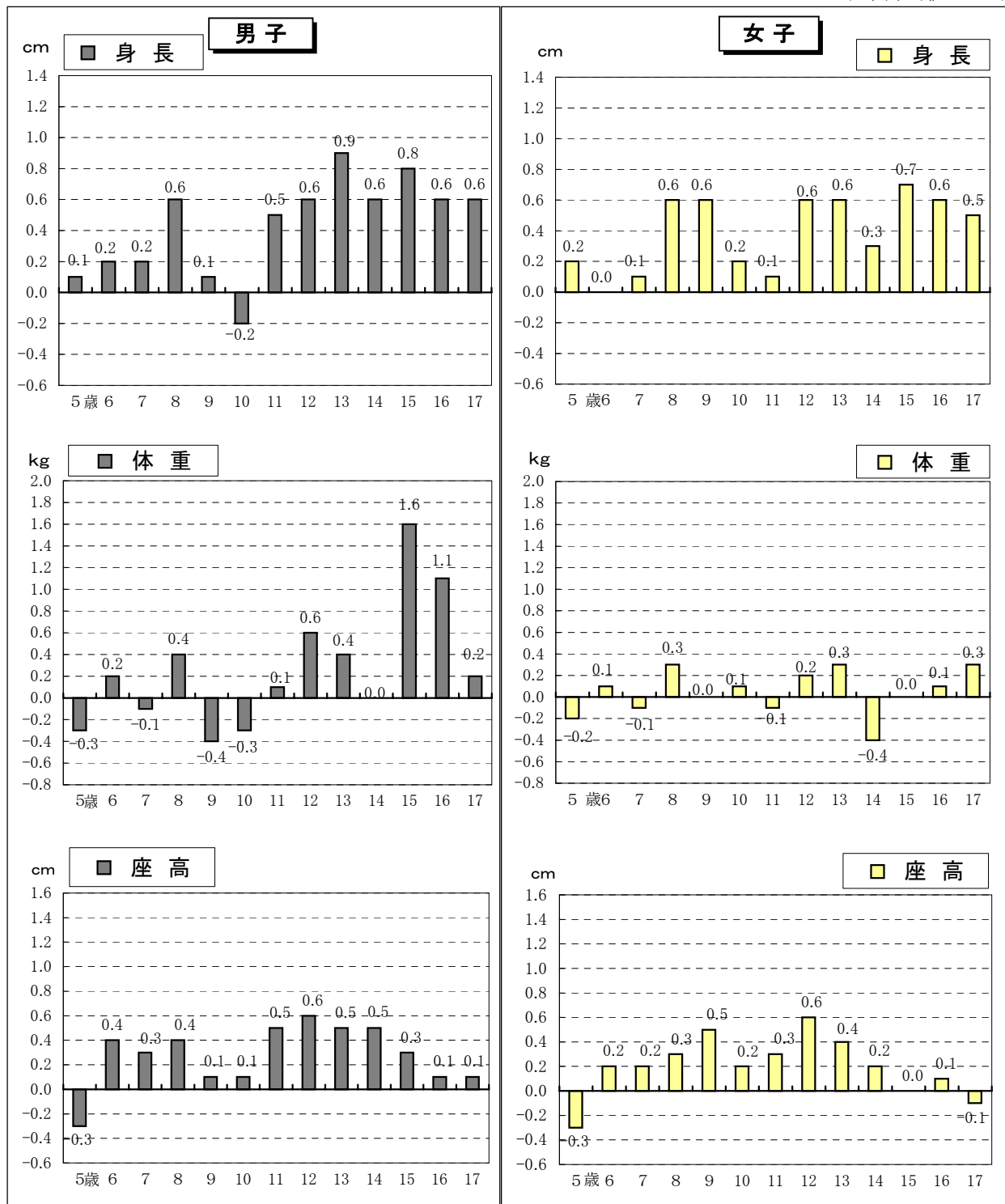
1 発育状態

(1) 全国平均体格との差 (図3、別表1参照)

身長では、男子が10歳を除く全年齢、女子の全年齢で全国平均値と同数値または上回っている。体重では、男子・女子ともに増減を繰り返している。座高においては男子が5歳、女子が5歳と17歳を除く全年齢で全国平均値と同数値または上回っている。

図3 男女別、年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値 = 0.0)



(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表7、別表5参照)

17歳(平成4年度生まれ)の総発育量を比較すると、男子は身長0.5cm、体重は0.3kg、座高は0.4cm全国平均値を上回っている。女子は身長0.4cm、体重は0.3kg、座高は0.3cm全国平均値を上回っている。

表7 男女別、総発育量の全国平均値との比較

区分	男子(平成4年度生まれ)			女子(平成4年度生まれ)			
	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A	
身長 cm	石川県	110.9	171.3	60.4	110.1	158.5	48.4
	全国	110.8	170.7	59.9	110.0	158.0	48.0
体重 kg	石川県	19.1	63.3	44.2	18.9	53.2	34.3
	全国	19.2	63.1	43.9	18.9	52.9	34.0
座高 cm	石川県	61.9	92.0	30.1	61.3	85.7	24.4
	全国	62.2	91.9	29.7	61.7	85.8	24.1

(3) 17歳(高校3年生)の身長の全国平均値との比較 (図6、図7参照)

17歳の身長を全国値と比較すると、石川県は男女ともに全国平均値を上回っている。また、北海道から近畿地方は全国平均値を上回る場所が多く、中国、四国及び九州地方は下回る場所が多い傾向がある。

(4) 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表8参照)

平成22年度の肥満傾向児の出現率は男子では15歳の13.75%、女子では13歳の8.71%が最も高く、反対に男子では5歳の1.94%、女子も5歳の1.46%が最も低い。また、全国平均と比べると、男子は8歳・12歳・15歳において、女子は6歳・13歳において上回っている。

表8 男女別、年齢別、肥満傾向児率の全国値との比較

単位：%

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
計	石川県	1.71	4.36	2.89	7.29	6.39	9.01	8.86	9.61	8.41	6.75	9.67	8.34	8.09
	全国	2.81	4.34	5.38	7.05	8.30	9.28	9.98	9.98	8.70	8.65	10.52	9.71	9.74
男	石川県	1.94	4.29	3.18	8.48	8.19	10.21	9.74	11.17	8.11	7.49	13.75	9.35	9.34
	全国	2.80	4.46	5.62	7.20	9.06	10.37	11.09	10.99	9.41	9.37	12.40	11.57	11.30
女	石川県	1.46	4.44	2.58	6.05	4.55	7.75	7.92	7.97	8.71	5.99	5.48	7.29	6.79
	全国	2.83	4.23	5.13	6.90	7.51	8.13	8.83	8.92	7.96	7.89	8.59	7.81	8.14

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

(5) 痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表9参照)

平成22年度の痩身傾向児の出現率は男子では10歳の2.70%、女子では12歳の3.69%が最も高く、反対に男子では7歳の0.16%、女子では6歳の0.07%が最も低い。

全体として8歳～10歳が全国平均値を上回っている。

表9 男女別、年齢別、痩身傾向児率の全国値との比較

単位：%

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
計	石川県	0.07	0.26	0.46	1.16	1.82	2.86	1.73	2.37	2.63	2.02	2.33	1.66	1.56
	全国	0.47	0.55	0.48	0.94	1.55	2.48	2.81	3.09	2.66	2.27	2.24	2.16	1.74
男	石川県	-	0.45	0.16	1.53	2.40	2.70	1.90	1.12	2.09	1.36	1.60	1.98	1.82
	全国	0.43	0.48	0.42	0.95	1.59	2.36	2.55	2.30	1.53	1.48	2.11	1.91	1.67
女	石川県	0.14	0.07	0.78	0.77	1.22	3.03	1.55	3.69	3.17	2.70	3.08	1.33	1.30
	全国	0.51	0.62	0.53	0.93	1.50	2.61	3.08	3.92	3.84	3.09	2.37	2.40	1.81

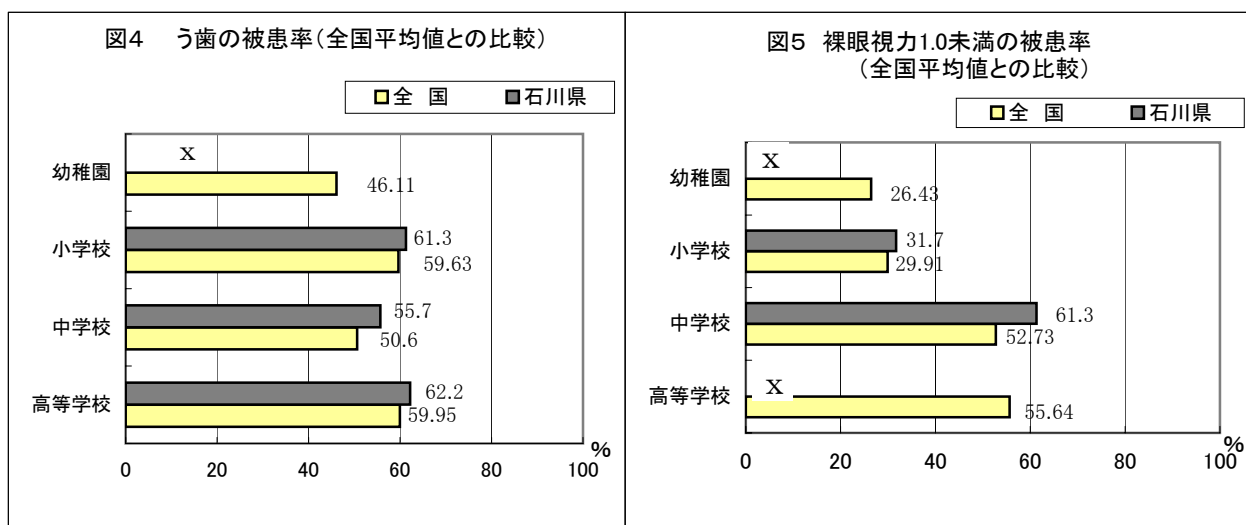
(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

2 健康状態

主な疾病・異常被患率の全国平均値との比較(図4・5、別表3参照)

「う歯」の被患率では、小学校が1.7ポイント、中学校が5.1ポイント、高等学校が2.2ポイント全国平均値を上回っている。

「裸眼視力1.0未満」の被患率では、小学校が1.8ポイント、中学校が8.6ポイント全国平均値を上回っている。



(注) 全国数値は小数第2位まで、石川県数値は小数第1位までを表記。

図6 17歳男女平均値の推移

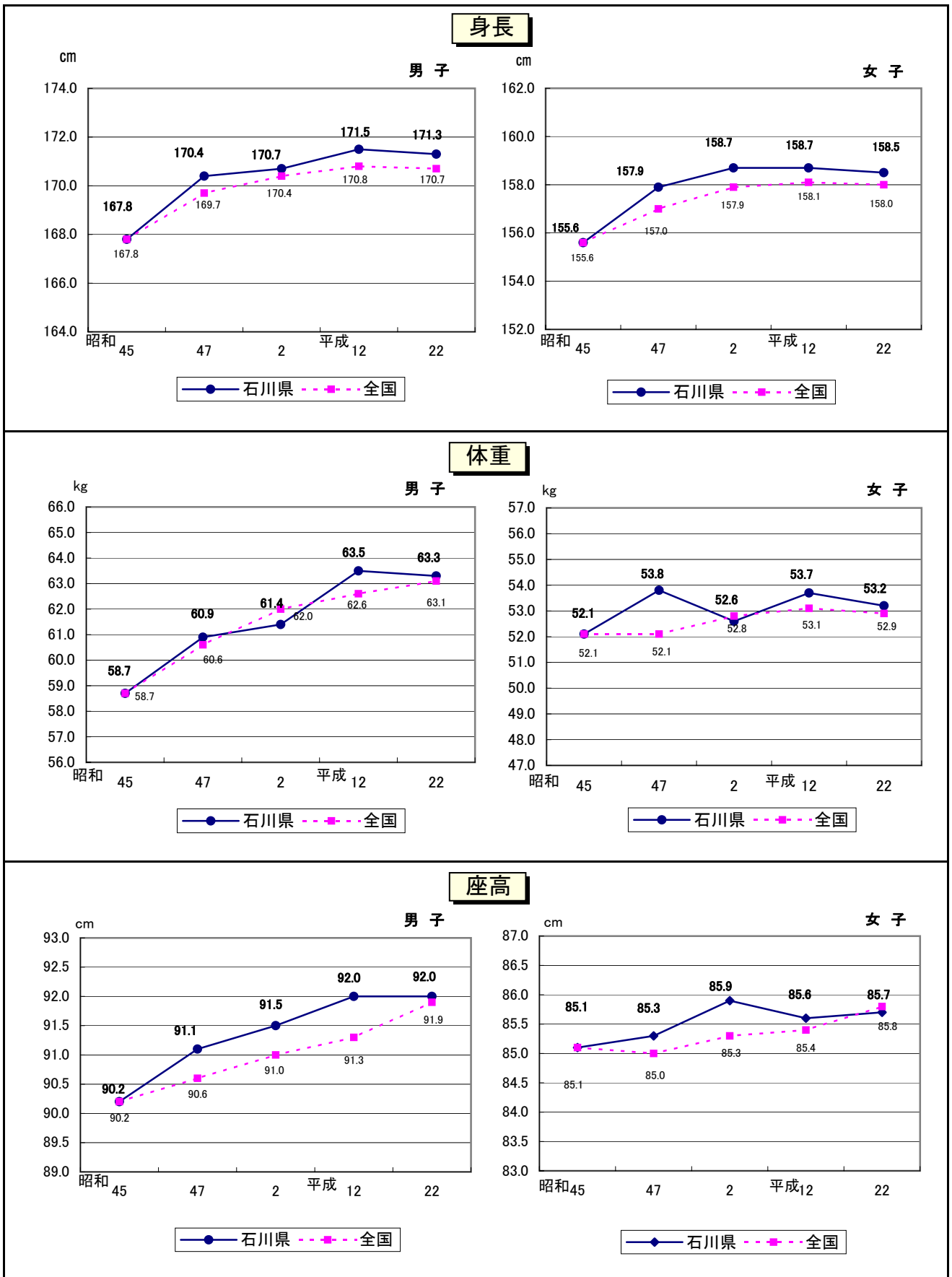
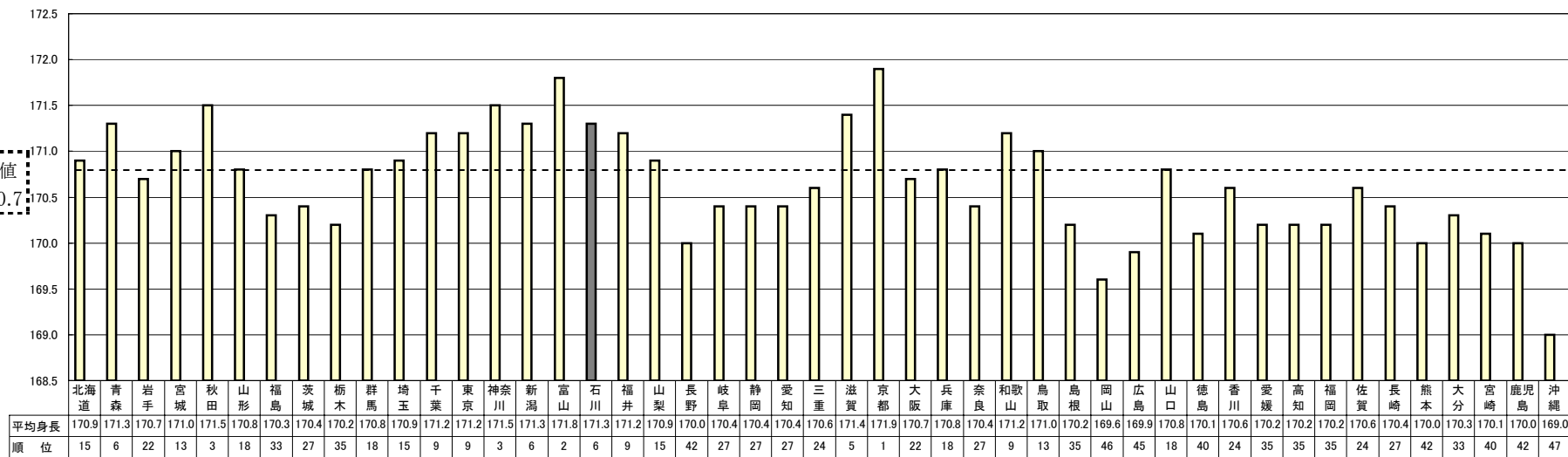


図7 都道府県別17歳の平均身長

単位：cm

男子



女子

